

命ある限り戦争に反対

戦争法案

今言わなければ

私が戦争法案に反対するのは、戦争によって人の命の価値がちりあぐたになっっていく悲惨さが体に染み付いているからです。

近所のお墓に「満州事変」で亡くなった兵隊の立派な石塔が建っていました。それが戦争が進むにつれて、ろくに石塔もつくれなくなる。遊んでくれたお兄さんや隣のおじさんも、戦争で亡くなりました。

八十二銀行元頭取 茅野 実さん



民主主義に驚愕

戦後、「修身」という教科がなくなり、代わりに「民主主義」という教科

という人がいます。公布時

憲法9条を空想的だと

いう人がいます。公布時

は、ほとんどの人が戦争

は二度とごめんだと思っ

ていました。9条は非常

に現実的でした。民主主

義の精神とか9条を受け

入れられなかった人は、

軍部と親しかった人たち

くらいじゃないでしょう

か。

70年間、日本は一度も

戦争に巻き込まれなかつ

たのに、2年前から変な

風が吹いてきました。な

んといっても特定秘密保

護法です。「満州事変」

以降、日本で言論が圧迫

されたように、本当のこ

とを教えないことから戦

争は始まる。いまの状況

は戦前とそっくりです。

ちの・みのる 1933年
生まれ。東京大学法学部卒業後、56年に八十二銀行に入行。94～2001年、同行頭取。98～99年、全国地方銀行協会副会長。

この世に地獄が

第1次世界大戦後の戦争では、民間と兵隊の区別なく殺され、戦勝国も敗戦国同様に疲弊して、人類が数千年かけて築いてきた「価値」をすべて破壊してしまいます。太平洋戦争は、この世に地獄があることをわれわれに教えてくれました。

戦争中、若者たちは天皇陛下万歳を叫び、自分も神様になると言って出征していききました。洗脳がいかにも恐ろしいかを身をもって感じました。人を殺すとか、自分が殺されるとかいうことに強い抵抗を感じない。そういう社会になる前に手を打たなければいけない。人類は、戦争を止めようと思えば止められるんです。

聞き手・写真 佐久間亮